

行事名	1月例会:グローバルエンジニアを目指して!
日時	2020年1月18日(土)
場所	械振興会館 6D-1、6D-2 会議室
講師、発表者	坂井国際委員、境研修委員長、松田氏、竹内委員、河野委員、高木委員
担当者: (○印:リーダー)	○水柿委員、田中雅人委員、吉浦委員、竹内委員、河野委員、高木委員、大藺委員
参加者数	42名 (講演者・パネリスト除く)

1 背景・目的

- ①青年技術士交流委員会における国際交流活動の紹介や、有識者によるパネル討論、参加者全員でのワークショップを通じ、青年委員会による国際交流活動の内容を日本技術士会に周知することを目的とし、ひいては予算の確保、国際交流活動の機会の確保を狙う。
- ②本例会では、参加者にとって、技術者としての国際交流活動を行うきっかけ作りとしたい。講演やパネルディスカッション、グループワークを通して、今後、グローバルエンジニアになるための自己研鑽手法について考えてもらうことを第2の目的とする。同時に、将来、共に国際交流活動を行う青年仲間の拡充を図る。

2 例会内容

2.1 例会担当より確認事項、タイムスケジュールの説明(13:30~13:40):水柿委員

水柿委員より、確認事項、本例会のテーマおよびタイムスケジュールの説明を行った。

2.2 青年委員長による挨拶(13:40~13:45):竹内委員長

竹内委員長より、本例会のテーマと目的を伝えていただき、開催の挨拶とした。

2.3 第一部 講演(13:45~14:35):講演者5名<司会:水柿委員>

下記、講演者(題目)による講演を実施した。

講演① 坂井国際委員長(グローバル人材に求められる資質)

講演② 高木委員(CAFEO/YAFEO 参加報告)

講演③ 竹内委員長(香港/FEIAP 参加報告)

講演④ 河野委員(WEC/日豪交流 参加報告)

講演⑤ 境研修委員長(資源工学から見えてきた SDGs)

2.4 第二部 パネルディスカッション(14:55~15:40):パネリスト6名<モデレーター:水柿委員>

パネリストは、第一部の講演者5名に、青年委員OBの松田みゆき氏を加えた計6名とした。パネルディスカッションでは、以下のテーマをもとに、パネリストに意見・見解等をいただいた。

テーマ①:グローバルエンジニアとは?(パネリスト全員が回答)

テーマ②:技術者として、どのように研鑽を積んだらよいのか(坂井委員長、境委員長が回答)

テーマ③:今後、技術者としてどのような形で国際交流を進めていきたいか(パネリスト全員が回答)

なお、上記のテーマ②では、パネリスト同士の自由討論の場を設けた。自由討論では、高木委員、竹内委員長、河野委員が、坂井委員長および境委員長に質問や意見を行い、回答をいただいた。最後に、参加者からの質問を受け付けた。1名の参加者から意見をいただきパネルディスカッションを終了した。

2.5 第三部 グループワーク(15:50~17:05):参加者全員<モデレーター:田中雅人委員>

グループワークは、1班 5~6名で実施した。グループワークのテーマは、「Young Engineers Exchange を日本で開催!」とし、日本で青年技術者国際交流フォーラムを行うなら、どんな

イベントにするかについて、各班で討論し、一つの企画を作成した。

まずは、各自、自己紹介を1分程度で行った後、各班で、リーダーと発表者を決めた。つづいて、以下(1)~(4)の流れでグループワークを進行した。

- (1) 【目的】 なんのためにやる？その理由は？ (10分)
- (2) 【手段】 どんなイベントを実施する？ (10分)
- (3) 【目的の追求】 目的を達成するためのひと工夫 (10分)
- (4) まとめ、グループワークシートへの記載 (10分)

上記終了後、それぞれの企画について班ごとに発表を行った。(発表時間：3分間)

2.6 講評(17:05~17:15):坂井国際委員長、境研修委員長

グループワークの発表内容について、坂井国際委員長および境研修委員長から講評をいただいた。

2.7 総括(17:15~17:20):竹内委員長

竹内委員長より、本例会全体の総括をいただいた。また、日本技術士会の岩熊副会長をご紹介いただいた。

2.8 懇親会(17:40~19:40)

例会と同じ部屋で、ケータリングサービスを利用した懇親会を実施した。懇親会には、参加者、両委員長に加え、岩熊副会長も参加された。

3 成果と所感

本例会の目的とテーマについて、準備段階から何度も打ち合わせを行い、方向性を明確にすることにより、例会全体としての一体感が強まったと感じた。

第一部の講演、第二部のパネルディスカッションでは、講演者やパネリストが実際に行ってきた国際交流の貴重な体験を聞くことが出来たものと思われる。その後のグループワークでは、これまでの内容を参加者各自でかみ砕き、グローバルエンジニアとして、どのような企画を立ち上げることが望まれるかの意見を出し合い、グループごとに一つの企画をまとめあげた。各グループの発表は、先着順としたが、すぐに手が上がり、それぞれ熱の入った素晴らしい発表をしていただいた。

良かった点として、講演者・パネリストの方々が、型通りの報告ではなく、国際活動で実際に苦労した経験談などを話していただいたことで、これから国際交流を行っていきたいと考えている参加者が刺激を受け、今後、グローバルエンジニアとしての第一歩を踏み出すためのきっかけづくりとして貢献できたものとする。

反省点として、時間の関係もあり、参加者と講演者・パネリスト間での意見交換の場を持つことが出来なかったことが悔やまれた。

なお、本例会の目的として、①日本技術士会へのアプローチ及び②参加者への国際交流へのきっかけづくりを設定したが、①②の両方とも、一定の成果があったものとする。

4 今後の展開

今回のような国際交流に関する例会は、今後も継続して実施していきたいと考えている。なお、本例会終了後に開催された研修委員会において、研修委員から後押し等サポートをするので、青年委員会主催で若手技術者国際交流イベントを進めてもらいたい旨の要望があった。今後は、研修委員会、国際委員会、技術士会本部とも情報共有しつつ、青年委員会としての国際交流活動を更に推進していく予定である。

5 実施状況写真



竹内委員長より例会開催の挨拶



坂井国際委員長による講演



高木委員による講演



境研修委員長による講演



パネルディスカッション



グループワーク



グループワーク（発表）



懇親会

以上